

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原西小学校	校長氏名	北村 由美子	生徒指導主事氏名	平野 知子
-----	------------	------	--------	----------	-------

**取組事例名 『1年生と仲良くなる会』**

**取組のねらい『異学年交流による心の居場所づくり』**

- ① 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員として自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ② 1年生と楽しく活動することで、互いに認め合い、喜びを実感できる「心の居場所づくり」をめざす。
- ③ 「あいさつをしたり楽しくお話をしたりする」(1年生)・「1年生にあいさつをしたり、声かけをしたりする」(他学年)という目標を決めて取り組む。

**取組の具体的内容『ゲームを通じた絆づくり』**

内容 (司会進行・・・平成27年度 前期児童会役員)

- ①はじめの言葉 (児童会役員)
- ②校長先生のお話
- ③児童会あいさつ (児童会役員)
- ④学年ごとのゲーム

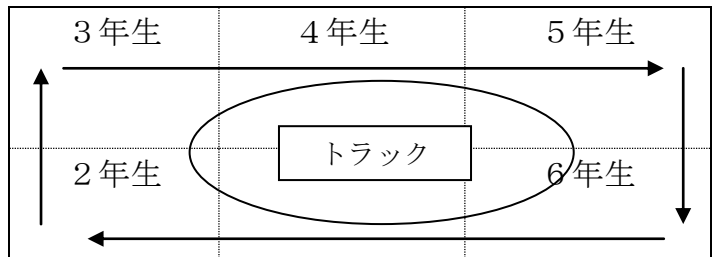
※ 学年ごとに1年生を迎え、全校で同時にゲームをする。

(各学年でゲームを考え、準備しておく。)

※ 1年生は5グループに分かれ、各学年を約10分ごとにローテーションする。

※ 1年生はグループごとに最初に自己紹介をさせる。

※ 1年生の5グループに担当の職員を配置する。



- ⑤ 1年生へのプレゼント渡し

※プレゼントは6年生が用意し、1人1人に手渡す。

- ⑥ 1年生のお礼の言葉
- ⑦ 終わりの言葉 (児童会役員)
- ⑧ 1年生退場

★実施後、1年生と活動したことを川柳に書かせる。

★川柳を昼の給食放送で紹介する。



**取組の課題・創意工夫『点の取組から線の取組へ』**

課題

- 1年生と他学年との交流が、行事の時以外の日常的なものにはなっていない。たてわり班での遊び・読み語りなど、異学年交流を工夫していく必要がある。

○高学年に「下級生のお手本」ということを意識させ、下級生が「なりたい自分」として上級生を尊敬できるようにすることで、高学年がお手本となる、よりよい伝統をつくっていく。

### 取組の成果（効果）『自己存在感と共感的人間関係の育成』

○全体としては児童会が、学年ごとのゲームの場面では、各学年が中心となって企画・立案・準備・進行することを通して、主体性や自主性を育成することができ、協力して取り組むことができた。

○6年生は、プレゼントを作って直接1人1人に手渡すことを通して、1年生を思いやる心が育つとともに、最上級生としての自覚をもつことができた。

○1年生は、上級生に声をかけてもらったり、一緒にゲームを楽しんだりすることを通して、上級生や学校に親しむことができた。

○児童会役員は、1人1人が役割を分担し、協力して取り組むことを通して、自己存在感を与えることができた。

○行事全体を通して、児童相互の共感的人間関係を育成することができた。

### 今後の展開『心のバトンをつなぐ』

#### 『6年生を送る会』

○5年生の児童会役員にとって、初めての児童会行事の企画・立案・準備・進行となる。学校のリーダーとしての自覚を持ち、協力しながら、それぞれの役割を果たすことで自己存在感・自己肯定感の充実を図る。

○1年生から5年生は、お世話になった6年生にメッセージを用意することを通して、感謝の気持ちをもつとともに、一緒にゲームなどを楽しみ、共感的人間関係を深める。

### 他校へのアドバイス『児童もミドルリーダーの育成を』

○各学年がゲームを準備することで、全校で同じゲームを楽しむよりも、1年生以外の学年が、主体的に活動することができる。

## 【 振り返りの川柳 】

これからも  
心をつないで  
遊ぼうね

仲良くね  
そしてお手本に  
ならなくちゃ

目を合わせ  
「よろしく」と言ったら  
笑ってた

顔見ると  
笑顔がたくさん  
あふれてた

あの笑顔  
見るとこっちも  
ニコニコに